

【事業名称】日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
 ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～
 【選定年度】平成28年度（タイプB ASEAN）

【事業の概要】

■本事業は、経済的成長・産業興盛と自国の伝統的芸術文化・遺跡・風土・観光資源の維持継承との調和に基づく発展を目指すCLMV諸国等において、各国を代表する8校の国立芸術大学と連携し、「高等教育機関における芸術教育プログラムの充実」「質保証システムの構築による芸術文化の保存・継承」「産業の発展に係るインフラ人材の育成」を目指す取組である。

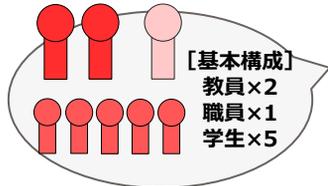
【交流プログラムの概要】

教職員・学生ユニットの派遣による
 連携大学における共同授業



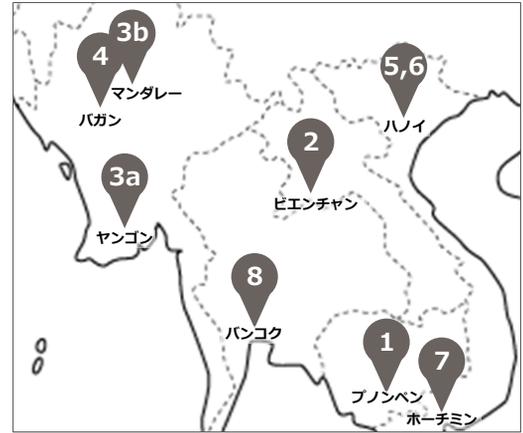
連携大学の所在都市・地域コミュニティ等を
 舞台とした協働社会実践（アートプロジェクト）

例）日本画と連携国特有の絵画表現を題材とした共同授業
 ⇒地域の子どもたちを対象とした絵画教室を協働で開催



年間6ユニットの派遣
 [6ユニット×5名 = 30名]

- 1～2週間程度の現地活動
- 正規科目として両校で単位付与



- ☆☆ ①カンボジア王立芸術大学
- ☆☆ ②ラオス国立美術学校
- ☆ ◆※③ミャンマー国立文化芸術大学
 (a.ヤンゴン校 b.マンダレー校)
- ※④バガン漆芸技術大学
- ☆ ◎ ※⑤ベトナム美術大学
- ▲◆ ⑥ベトナム国家音楽学院
- ★▲◆※⑦ホーチミン市美術大学
- ★◎◆ ⑧シラパコーン大学

短期研修・交換留学

主として、上記の共同授業・協働社会実践に参加した各校の学生が
 より深く相手国・大学の芸術文化を学ぶ機会として整備



- 1週間～1カ月または2カ月～半年程度
- 受入校の授業科目を履修し、学修内容に応じた証明書を発行
- 受入留学生にはインターン等の多様な体験機会を提供

連携大学の若手教員を本学の修士課程・博士課程に受入



- 連携大学・若手教員のキャリアアップ
- 長期的・継続的な大学間交流への布石

- ☆：日ASEAN芸術大学ネットワーク参加校
- ★：芸術交流プロジェクト参加校
- ◎：本学との国際交流協定締結校（▲：手続中）
- ◆：国際芸術教育会議2015招待校
- ※：本学の帰国留学生が教員として在籍

【本事業で養成する人材像】

■本事業では、自国の芸術文化に係る深い造詣と高い専門技能を兼ね備えて国際的に発信する力を有するとともに、他国の文化・歴史・風土等を真に理解し語学力や対話力を含む高いコミュニケーション能力を備え、多様な利害関係者との国際協働の場で自らの能力を適切に発揮することで社会実践に活かし、国際社会において伝統と革新の調和に基づく都市や地域の豊かな繁栄に貢献できる人材の養成を目指す。

【本事業の特徴】

■交流プログラムにより、CLMV諸国等が抱える諸課題と、本学及び我が国が抱える「グローバルに活躍できる芸術系人材の育成」「学生の海外留学・外国人留学生の受入促進」「大学組織・教職員の国際通用性の向上」「日本の芸術文化の普及・振興・発信」「芸術文化交流を通じた国際社会への貢献」等の諸課題とを同時並行的に解決する。さらに、本事業の持続的推進により、日本への留学者数の増加や日本の芸術文化・産業等の受容増進を導く「心のインフラ」を構築しつつ、アジア高等教育圏の更なる発展および交流の加速に資する。

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	18人	36人	36人	36人	36人
学生の受入	10人	16人	19人	19人	26人

1. 取組内容の進捗状況（平成28年度）

【東京藝術大学】

【事業名称】 日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

【選定年度】 平成28年度（タイプB ASEAN）

■ グッドプラクティス等



ラオスでの合同フィールドリサーチ



タイでの共同ワークショップ



ミャンマーでの交流授業

■ 交流プログラムの実施状況

○ 日本人学生の派遣

【ユニット派遣：共同授業やワークショップの実施】

- ・ シラパコーン大学に教職員3名、学生8名を派遣した。
- ・ バガン漆芸技術大学に教職員5名、学生5名を派遣した。
- ・ ミャンマー国立文化芸術大学に教職員2名、学生4名を派遣した。
- ・ ラオス国立美術学校に教職員4名、学生3名を派遣した。

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	18	22
学生の受入	10	20

【短期研修・交換留学：学生個人による滞在学修】

- ・ 短期研修生1名と交換留学生1名の計2名の学生をシラパコーン大学に派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・ ミャンマー国立文化芸術から教員1名・学生2名を招聘：Global Homecomingに参加した。
- ・ ホーチミン市美術大学から教員2名・学生2名を招聘：卒業・修了作品展覧会を見学した。
- ・ ベトナム国家音楽院より教員2名・学生2名を招聘：奏楽堂におけるコンサートに出演した。
- ・ シラパコーン大学から教職員9名・学生4名を招聘：研究発表会やワークショップを実施した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・ 連携8大学のすべてについて訪問または招聘を行い、交流プログラムに係る協議を実施した。
- ・ 交流プログラムの企画・実施に係る学内ガイドラインを策定・共有した。
- ・ 交流プログラムの企画・実施にあたって外部コーディネーターを活用した。
- ・ 平成29年3月に外部有識者4名からヒアリングを行い、次年度以降の交流計画を精査した。
- ・ 全学組織であるグローバルサポートセンター運営委員会において本事業の自己点検を実施した。
- ・ 本補助事業を含むグローバル戦略推進状況について外部委員によるレビューを実施した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・ 本事業を担当する専任のプロジェクトマネージャーを雇用した。
- ・ 各大学の管轄省庁や現地日本大使館、国際交流基金等と学生サポートに係る協議を実施した。
- ・ S G U事業により構築したグローバルサポートセンター、チューター制度等を活用した。
- ・ 派遣学生に対して、現地社会・現地語や安全対策に関する事前ガイダンスや説明会を実施した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・ ユニット派遣の一部企画には、連携大学以外の派遣先国の学生も参加し、共同学修を行った。
- ・ 交流プログラムの内容について、特設Webサイトにおいてレポートを発信した。
- ・ S G U事業で開催した「Global Homecoming2016」に、本事業の連携大学から特別枠として教員・学生を招聘し、ASEAN諸国以外も含めたネットワークの強化・拡大を図った。